

学校研究

金沢市立緑小学校

1. 現職教育方針

(1) 目標

- ①本年度の主な活動内容及び努力事項の取組を通して、学校のビジョンの具現化を図り、教育目標の達成に努める。
- ②学校研究主題の達成をめざして研究実践を積み、日々の指導の充実に資する。
- ③相互に交流し、指導力を高め合うことによって、教師の資質向上を図る。

(2) 研究の進め方

①校内研究

- ・学校研究主題、副題の達成をめざして、研究内容について討議する。
- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他の教育活動全般について研究討議する。
- ・積極的な授業研究、実技研修等を通して指導力の向上を図る。

②校外研修

- ・教職員全員が年間の研修計画を立案し、個に応じた研修を行い、資質を高める。
- ・各種講習会、研究会に進んで参加し、研修に努め、その成果を広める。
- ・校区内の中学校を初め、関係諸機関との積極的な連携を図っていく。

2. 研究の概要

研究主題 **豊かな心 確かな学力の育成**
—自ら学ぶ子を目指して—

(1). 研究主題・副題

①主題・副題設定の理由

近年、国際化・情報化・少子化・高齢化・価値観の多様化などが一段と進んだ社会となり、児童を取り巻く環境が急激に変化している。そうした社会の中で、児童が自分自身を見失うことなく、しっかりと行動していくには、自分で考え、判断し、実行していく力を育てていくことが必要である。また、自分の考えをしっかりと持つと共に、様々な人や情報との関わりを通して、自己を確立し、共に力を合わせて、よりよい人間関係・社会を築いていくよう指導していかなければならない。

本校では、この3年間、研究主題を「確かな学力の育成」として研究を進めてきた。児童が、「分かった」「できた」と実感し、学ぶ楽しさを味わい、「もっとやってみたい」と思う児童を目指して、授業形態を工夫したり、終末場面を充実させたりしてきた。その結果、年2回実施の児童アンケートで「授業の内容がよく分かる」と回答した児童は、9割を超えている。また、研究を向上するために、算数科では「思考力を確かめる問題」にも取り組み、児童が既習を生かして考えたり、粘り強く学習に立ち向かったりできるよう実践を重ねてきた。

しかし、実践を進める中で課題も見えてきた。学力の定着、自己の考えを広め深める姿、他者の考えを受け止める姿である。その場、ある瞬間では児童が「分かった」「できた」と捉えていても、時間が経つと忘れてしまったり活用したりする姿が弱い。そもそも、確かな学力を育成するためには、児童同士の関わり合い、認め合いのある授業や諸

活動を充実させ、学力の根底にある豊かな心を育成することが大切なのではないかと考えた。そこで、令和6年度・7年度と人権教育に関する研究校の指定を受けたことも考慮し、これまでの実践を土台にして、児童が関わり合い、認め合うことのできる授業を目指し、今年度から研究主題を「豊かな心 確かな学力の育成」に改め、副題を「自ら学ぶ子を目指して」と設定した。

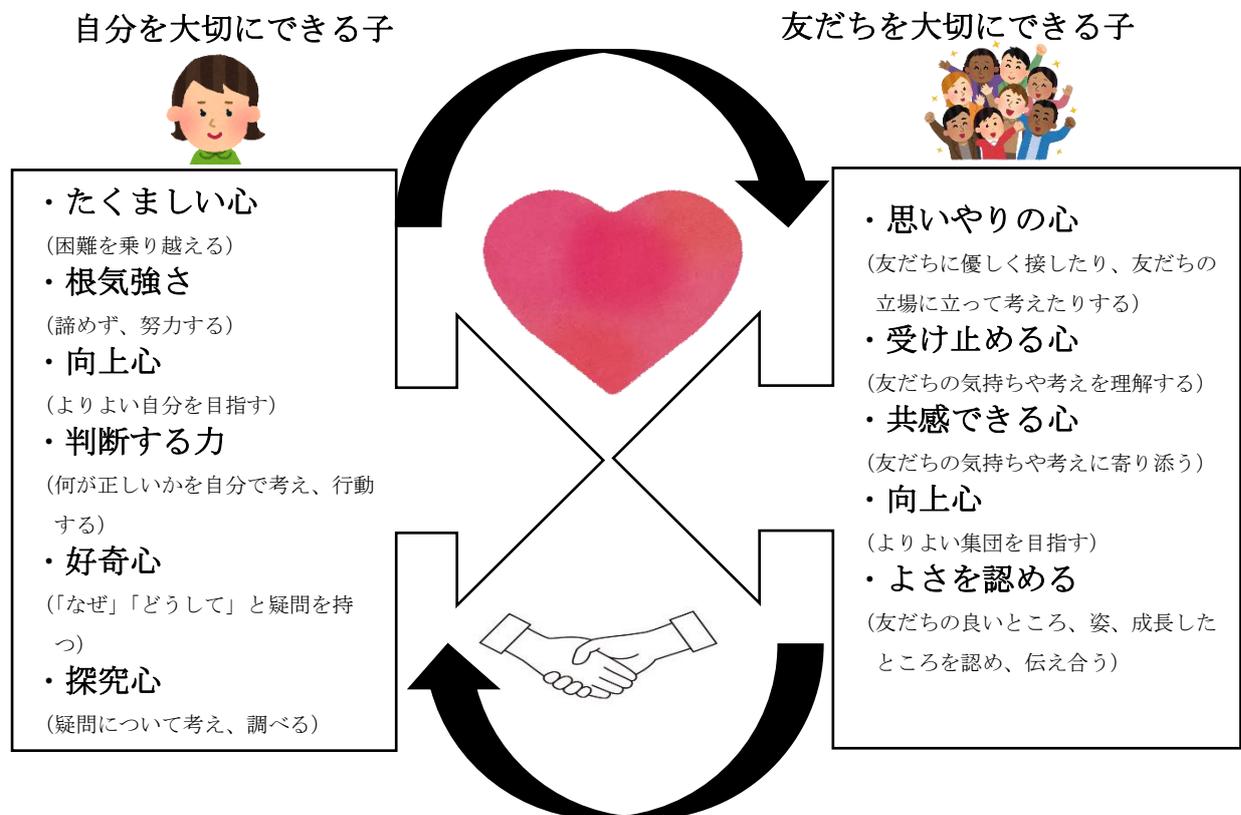
(2) 「豊かな心 確かな学力」について

- ・ 豊かな心を育んだ子
- ・ 確かな学力を育んだ子

であると、私たちは考える。

ア 豊かな心を育んだ子

以下の姿を自分と友だちを大切にできる「豊かな心を育んだ子」と捉える。



児童が豊かな心を育むためには、授業の中で児童同士が関わり合う場を設けたり、課題解決したくなる授業づくりを進めたりしていくことが必要である。また、学習活動だけではなく、学校生活・諸活動全般で一人ひとりの子どもの心を育む活動を推進していかなければならない。

イ 確かな学力を育んだ子

以下の姿を「確かな学力を育んだ子」と捉える。

- ・ 「学びたい」「できるようになりたい」「もっと分かるようになりたい」という気持ちを持てる子

- ・自分の考えを持てる子
- ・自分の考えを表現できる子
- ・各教科において、基礎・基本的な知識・技能を身に付けた子
- ・各教科において、思考力・判断力を身に付けた子
- ・学習したこと、自己の行動を振り返ったり、学びの変容を自覚したりできる子

児童が確かな学力を育むためには、授業づくりはもちろんのこと、言語活動の充実や、学習規律の徹底、ICTの活用等多面的な取り組みを通して、学校全体として共通理解・実践していくことが求められる。

3. 研究の方法

研究の重点

重点1：豊かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくり
重点2：児童が「分かった」「できた」と実感できる教師の工夫

(1) 重点1：「豊かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくり」

研究主題を改めたことにより、重点1は今年度より新規で追加する。

互いに認め合い、支え合う温かい集団を作るためには、落ち着いた教室環境で分かりやすい授業を展開すること、意図的に友だちと関わることを大切にした学級経営が不可欠であると考えます。また、異学年交流活動を通して相手の優しさに触れたり、相手に優しくできる自分に気付いたりする経験を増やすことで、自己肯定感を育むことも必要である。そのために、今年度は特に以下の点を大切にした授業づくりを行っていく。

★学習の基盤づくり

★関わり合いの工夫

★児童の目指す姿に基づく生徒指導部、特活部との連携を図った共通理解、共通実践

(2) 重点2：「児童が『分かった』『できた』と実感できる教師の工夫」

児童が「分かった」「できた」という達成感を味わい、「だから、またやってみよう」と主体的、意欲的に学べる児童を育てることを目指したい。そのためには、特に終末場面において、本時や単元で学んだことを確かめたり、他の場面でも生かすことができるか検証したりする機会が必要である。また、最初は分からなかったり、出来なかったりしたとしても、友だちと考えたり話し合ったりすることで「分かった」「できた」という成功体験を積み重ね、「どうしてできるようになったのか」と自己の姿を振り返ることも必要である。そのために、以下の点を大切にする。

～昨年度の共通実践～

①授業における学習の見通しが持てるように、学習過程プレートを活用する。

②終末場面における時間を確保するために、学習課題を早期に提示する。

③終末場面において、「学習ばっちりタイム」に取り組む時間を確保する。

④学びを言語化して自覚するための振り返りの視点（書き出し）を明示する。

⑤算数科で単元末に「思考力を確かめる問題」に取り組む。

⑥漢字小テストで、初回満点に達しない児童には、再テストを実施する。

～今年度の取り組み～

★授業の基盤づくり

★終末場面における指導

★児童が学びを生かすための指導

★児童が基礎的・基本的な学習を定着するための指導

4. 研究構想図

学校教育目標

豊かな人間性をもち、たくましく、自律した児童の育成

めざす児童像

自律した子

(①仲良く助け合う子②自ら学びよく考える子③元気で明るい子④家庭や郷土を愛する子)

研究主題

豊かな心 確かな学力の育成

聴く

重点1

豊かな人間関係づくりを

関わり合い

土台にした学級・学校づくり

振り返り

重点2

児童が「分かった」「できた」

思考力

と実感できる教師の工夫

板書

学習部

発問

生徒
指導部

人権教育

特活部

家庭・地域・小中連携



5. 重点にかかわる共通実践

(1) 重点1: 「豊かな人間関係づくりを土台にした学級・学校づくり」にかかわって

①学習の基盤づくり

○「聴くことは優しさ・思いやり」を合言葉にし、「目」「耳」「心」で「聴く」ことの指導を徹底する。

- ・全校で「聴くこと」についての学習目標を以下のように設定し、隔月各学級で取り組み、振り返りを行う。よく出来たことを価値づけ、次に生かせるようにする。

学期	取り組む月	観点	「聴くこと」学習目標
1	4・5月	耳・心	〈相手の話を最後まで聴こう〉
	6・7月	目・心	〈相手の目を見て、話を聴こう〉
2	9・10月	耳・心	〈相手の言いたいことを考えて、話を聴こう〉
	11・12月	目・心	〈相手の方に体を向けて、静かに話を聴こう〉
3	1・2月	耳・心	〈自分の考えと比べて、相手の話を聴こう〉
	3月	まとめ	〈自分と友だちの良い姿を振り返ろう〉

○学びの構えとして年間を通して「スイッチ3」の指導を徹底する。隔月「スイッチ3」に関する学習目標を学校全体で設定し、振り返りを行う。

- (1) 準備・・・次の授業、活動の準備をしてから休み時間にする。

※1時間目と2時間目の間、3時間目と4時間目の間、5時間目と6時間目の間の休み時間は「準備時間」と捉え、トイレ、水分補給、次の教室への移動の時間とする。また、教室移動の際には、担任引率の下、並んで移動する。授業が終わり元の教室へ戻る際にも、並んで移動する。

- (2) ベルスタート・・・チャイムと同時に授業がスタート出来るように、「3分前教室」「1分前着席」する。

- (3) あいさつ・・・身なりを正し、全校で共通した授業前・終わりのあいさつを行う。

学期	取り組む月	観点	「スイッチ3」学習目標
1	4・5月	準備	〈学習の準備をしてから、次のことをしよう〉
	6・7月	ベルスタート	〈チャイムと同時に始めよう〉
2	9・10月	あいさつ	〈身だしなみ+お辞儀+あいさつをしよう〉① ※担任以外の授業では、教室の出入りの際のあいさつ指導も含む
	11・12月	準備 ベルスタート	〈お互いに声を掛け合って準備をし、チャイムと同時に始めよう〉
3	1・2月	あいさつ	〈身だしなみ+お辞儀+あいさつをしよう〉② ※担任以外の授業では、教室の出入りの際のあいさつ指導も含む
	3月	まとめ	〈自分と友だちの良い姿を振り返ろう〉 (1年間の振り返り)

○丁寧な言葉遣いをするよう指導する。

- ・授業中は「～です。」「～ます。」などの丁寧な言葉を用いるよう指導する。
- ・友だちのことを「○○さん」と指名したり呼んだりするよう指導する。
- ・教師から呼名された場合には、「はいっ」と返事をするよう指導する。

○金沢型学習スタイルに基づいた「緑学習スタイル2024」を確立する。

※「緑学習スタイル」とは、児童がいつでも、どこでも、誰とでも安心して学習に取り組むために、教師が学習課題、板書、発問、まとめ・振り返る等の45分間の授業の流れと共通実践をまとめたものである。

学習の基本パターンと児童の学習活動	共通実践
<p>1. 学習課題をつかむ 5分程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の確認から授業を始める ・ノートには、学習した日付を書く ・ノートに学習課題をく　　> (赤)で書く ・算数科、社会科では見開きでノートを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員挙手で前の学習と本時の学習を確認する ○学習計画等を用いて、本時の学習の見通しを持たせる ○付けたい力に即した学習課題を設定する ○大体のまとめの時間を板書に位置付け、教師と児童とが共有する
<p>2. 自分の考えを持つ 10分程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を確認する ・前時などのノートを見返す ・自分の考えを㊸ (黒)として書いたりICTを活用して表現したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えが持てるように既習の掲示を活用するよう声掛けしたり、机間指導を実施したりする
<p>3. 自分の考えを伝え合う 15分程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的意識、相手意識を持ったペア、グループ、全体交流などを行う ・交流の姿を振り返る ・自分の考えを最初と比べて、深める 	<ul style="list-style-type: none"> ○何のために伝え合うのかという目的やめあてなどを児童と教師とが互いに共有して活動を行う ○交流の際には、机間指導を行い児童の姿を見取る ○交流した後には、交流してみてどうだったのかを振り返る
<p>4. まとめる 5分程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件に合わせて自分の言葉でまとめる(最初は、共通のまとめや穴埋め形式も可とする) ・まとめは、㊹ (赤)を書き、赤で定規を使って囲む 	<ul style="list-style-type: none"> ○㊹を書く前に、本時で明らかになったことやキーワードが何だったか確認する ○キーワードを用いたり、条件に合ったりしたまとめが書けているか支援する ○いずれは、自分の言葉でまとめが書けるように段階を経て指導していく。
<p>5. 学習ばっちりタイムに取り組んだり、振り返りを書いたりする 10分程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ばっちりタイムに取り組む ・振り返りは、㊺ (青)を書き、青で定規を使って囲む ・振り返りの視点を参考にし、振り返りを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のねらいに即した学習ばっちりタイムに取り組ませる ○児童自身が自分の学びを振り返られるように振り返りの視点(書き出し)を提示する

○基本的なノート書き方をそろえる指導を行う。

- ・年度当初に、「ノートのおきて」（下記参照）を用いて、指導を行う。

～ノートのおきて～

- ① 正しい姿勢で、正しく丁寧な字で書く。
- ② いつでも、どの教科でも習った漢字を使う。
- ③ 一マス一文字 ただし、日付や番号などは一マス二文字でもよい。
- ④ 日付、課題、問題など変わるときは、一列・一行空ける。
- ⑤ **や**の句読点（くとうてん）を入れる。
- ⑥ ○月○日（△）の日付をきちんと書く。
- ⑦ 題名やテーマ、＜学習課題＞を書く。（赤）
- ⑧ 自分の思いや考えをノートにどんどん書く。
- ⑨ まとめは定規を使って、赤できちんと囲む。
- ⑩ ふりかえりもしっかりと書き、青できちんと囲む。
- ⑪ 線は全て定規を使って、まっすぐ引く。
- ⑫ プリントを貼るときは、マラソン貼りかカーテン貼りをする。
- ⑬ ページは、飛ばさずに使う。
- ⑭ 下敷きを敷く。

※ノートは、学校で注文します。



- ・教室内に、書き方の点でお手本となるノートを掲示し、児童の目に触れるようにする。掲示は、毎月1枚は更新する。特に、学期はじめなどは、良いものをコピーして児童に渡したり、大型モニターに映して示したりして児童の意欲を喚起することもできる。

②関わり合いの工夫

○授業の中で、目的意識、相手意識を伴った関わり合う場面を意識的に設定する。

- ・関わり合う場面、形態を吟味して行う。
- ・伝え合う場では、何のためにペアやグループで伝え合うのかという目的やめあてなどを児童と教師とが互いに共有する。
- ・交流後にはどんな姿になっていけばよいかを明らかにして共有する。
- ・友だちの考えを一目で見たり、交流相手を選んだりするために、ICTを積極的に活用する。

○「みんなで分かる」、「みんなができる」授業づくりを目指す。

- ・個による学びだけではなく、共有する場面があったからこそ、児童の考えが広がったり深まったりしたということを教師が価値づける。
（例）◆○○さんのおかげで、～～ができるようになったんだね。
◆みんなで○○を頑張ったから、～～を達成することが出来たんだね。
◆初めは○○が分からなかったけど、みんなで考えたら～～出来たんだね。

○地域の方との交流、活動を通して豊かな人間性を育めるようにする。

- ・寺子屋学習（2年生）
月に2回、地域の方による学習支援教室を実施する。
- ・「二塚じょんがら」指導、押し寿司体験（3年生）
5月、地域に伝わる「二塚じょんがら」を学ぶ会を実施する。
10月、金沢の伝統的食文化「押し寿司体験」を地域の方に教えていただく会を実施する。
- ・田植え体験、稲刈り体験、収穫祭（5年生）
5月に緑米を田植え体験し、10月に稲刈り、自分たちが収穫した緑米で餅つきを行う収穫祭を実施する。
- ・ミシンボランティア（5, 6年生）
家庭科のソーイングの学習では、ミシンの指導の際に、地域の方にボランティアで来ていただき、ミシンの使い方、縫い方を支援していただく。
- ・読み聞かせボランティア（全学年）

朝学習【読書】の時間に、ボランティアの方々による読み聞かせを年間数回実施する。
 ※これらでお世話になった地域の方々には、活動終了後に感謝の手紙を書くことを指導し、感謝の気持ちを伝えられるようにする。

③児童の目指す姿に基づく生徒指導部、特活部との連携を図った共通理解、共通実践【生徒指導部】

- 集団生活における基本的な生活習慣を身に付けさせる指導の徹底
- ・心を結ぶ気持ちの良いあいさつと、素直な返事をするよう指導する。
 - ・学習規律や「みどりっ子のきまり」を守ることの指導の徹底、習慣化を図る。
 - ・豊かな人間関係を育むための生活目標の設定と、振り返りの場を設定する。

学期	取り組む月	観点	生活目標
1	4・5月	身だしなみ	〈身だしなみを整えよう①〉
	6・7月	廊下の歩き方	〈廊下を正しく歩いて、自分と友だちを大切にしよう②〉
2	9・10月	あいさつ	〈相手に伝わるあいさつをしよう①〉
	11・12月	廊下の歩き方	〈廊下を正しく歩いて、自分と友だちを大切にしよう②〉
3	1・2月	あいさつ	〈相手に伝わるあいさつをしよう②〉
	3月	まとめ	〈自分と友だちの良い姿を振り返ろう〉 (1年間の振り返り)

- ・豊かな人間関係、人権感覚を養うことを意識した保健目標の設定、9月・1月の身体測定時の保健指導の内容を吟味する。

【保健目標】

月	保健目標
4	〈自分の体をよく知り、自分や周りの人を大切にしよう〉
5	〈身のまわりを清潔にし、心も体も気持ちよく過ごそう〉
6	〈口の中の健康について考えよう〉
7	〈暑さに負けない心と体をつくろう〉
9	〈規則正しい生活をして、心と体を元気にしよう〉
10	〈目を大切にしよう〉
11	〈けがを防いで、自分と周りの人を守ろう〉
12	〈寒さに負けない心と体をつくろう〉
1	〈かぜを予防して、心も体も元気に過ごそう〉
2	〈健康な心と体をつくり、友だちとなかよくなるよう〉
3	〈1年の健康生活を振り返ろう〉

【保健指導内容】

学年	9月	1月
1	プライベートゾーン	イライラしたとき 6歳臼歯
2	人の気持ち・よく噛んで食べよう	うれしいことかな、嫌なことかな？
3	歯の生え替わり・ふわふわ言葉	ごめんなさいの伝え方
4	不安や悩みの原因	アサーション
5	リフレーミング	メディアの使い方(目・生活リズム)
6	メディアの使い方 (リテラシー・SNS)	ネット依存 歯周病

○いじめ防止の徹底

- ・毎月（7月と12月は除く）のいじめアンケートの実施、日頃の観察、児童支援などによるいじめの早期発見を行う。
- ・いじめは「しない」「させない」「許さない」「見逃さない」を徹底して指導する。
- ・養護教諭、児童支援担当、スクールカウンセラー、学びの支援員との適切な連携により、教育相談の充実を図る。
- ・hyper Q-Uを全学年で2回実施し、よりよい学級集団をつくるための手立てとすると共に、いじめ未然防止に役立てる。

○自己肯定感を育むための諸活動の実施

- ・いいところ見つけ（ミッケ）の取り組みを行い、友だちの良い姿を見つけてそれを伝えたり表現したりする場を設ける。
- ・学校全体の教員が、一人ひとりの児童の良い姿を見つけ、それを「ナイスレター」に書き、担任に届ける。担任は、「ナイスレター」を教室に掲示する。
- ・清掃活動において頑張りが認められる児童には、そうじの班長から週に1度、（主に金曜日）「そうじMVPカード」が送られ、互いにその頑張りを称える場を設定する。

【特活部】

○豊かな人間性、人間関係を育むための諸活動

- ・6年生が主催（3月は、5年生）するなかよし遊びを充実させ、異学年との交流を通して互いを認め合ったり、思いやる心を育成したりできるようにする。

（案）

月	なかよし遊びのテーマ
4	〈新しいグループの友だちの名前を覚えよう①〉
5	〈運動会の応援練習をしよう〉
6	
9	
10	〈新しいグループの友だちの名前を覚えよう②〉
11	〈冬の遊びを楽しもう〉
1	〈昔遊びを楽しもう〉
2	
3	〈6年生の卒業をお祝いしよう〉 ～メッセージ贈呈式～

- ・児童会目標「自分から心のこもったありがとうを伝えよう」に合った活動ができるよう、各委員会のできることを話し合い、全校に向けて取り組みを発信し、常時活動や創造的活動を行う。
- ・運営委員会、各学級の学級代表、各委員会の委員長が中心となり、月に1度（予備日あり）代表委員会を行う。児童会目標を達成するために考えた取り組みについて皆で協議したり、アイデアを出し合ったりして、よりよい緑小学校になるように話し合う。
- ・学級活動（話し合い活動）では、全校共通の「学級会マニュアル」に基づいて、話し合う活動を行う。よりよい緑小学校になるように、全児童が考え、友だちの考えを受け止め、伝え合い聴き合う場を作れるように指導する。

重点2：「児童が『分かった』『できた』と」実感できる教師の工夫

★「分かった」「できたとは」

【例】

(国語)

- ・登場人物の心情や気持ちの変化が分かったので、「オリジナルブック」にまとめることができた。
- ・筆者の主張が分かったので、自分の考えをまとめることができた。

(算数)

- ・友だちの話を聴いたら、計算のやり方が分かったので、自分の力で解決することができた。
- ・計算の方法が分かったので、学習したことをいかして難しい問題にも挑戦することができた。自分で説明することもできた。

(社会)

- ・予想と照らし合わせて資料を読み取ったら、結果が分かった。自分の生活にいかそうとすることができた。
- ・歴史人物の業績や思いが分かった。そこから、今の日本があるのは歴史人物の業績のおかげだという思いを持つことができた。

(理科)

- ・予想と照らし合わせて実験をしたら、結果がはっきりと分かった。条件を変えても、結果は同じだったので、〇〇は～～なのだとかつむことができた。

(体育)

- ・友だちのやり方を見たら、今までよりも遠くにボールを投げられるようになった。だから、次もがんばりたい！という気持ちを持つことができた。
- ・今までは〇〇ができなかったけど、友だちのアドバイスのおかげでやり方が分かった。次は、自分のやり方を友だちに伝えられるようになりたいという気持ちを持つことができた。

(道徳)

- ・今までは、「親切」とは～～と思っていたけれど、〇〇も「親切」な行いなのだと気付いた。自分のこれからの生活にいかそうという思いを持つことができた。

(総合)

- ・高齢者体験を通して、高齢者の困り感が分かった。これから、高齢者に関わる時には、助け合いやゆずり合いの気持ちを持つことが大切なのだとか気付くことができた。

(音楽)

- ・繰り返し聴いたら、歌い手や作曲家の工夫が分かった。他の曲でも、その工夫がいかされていることが分かったので、自分たちの演奏にもいかしたいという気持ちを持つことができた。

(英語)

- ・好きなものを尋ねる言い方が分かった。好きなもの以外にも、～～な表現を使えばもっと表現できることが増えそうなので、インタビューして聴きたいという気持ちを持つことができた。

①授業の基盤づくり

○授業の流れが分かる板書

- ・「つかむ」「考える」「伝え合う」「まとめる」「学習ばっちりタイム」の学習過程プレートを活用し、本時のゴールを示した板書を意識する。
- ・違いや多様さを対比的、構造的に示す板書を意識する。
- ・思考の流れを生む板書を意識する。
- ・児童が自分たちの考えや思いをつなぎながらつくる板書を意識する。

○発問

- ・自己の振り返りが深まるような、後の活動につながるような発問を行う。
- ・物事を多面的、多角的に考える発問を行う。
- ・考える必要感を生む発問を行う。

②終末場面における指導

○終末場面で「学習ばっちりタイム」の時間を確保し、確実に取り組む。

- ・児童が本時の学習が「分かった」「できた」を振り返ったり、教師が児童の姿を見取ったりする。
- ・本時の学習のねらいに即した「学習ばっちりタイム」になっているかどうかを吟味する。

○本時での学びを振り返る時間を確保し、自身の振り返りを表現する場を設ける。

- ・低学年、中学年、高学年に応じた振り返りの視点（書き出し）を提示する。
- ・教師は、児童が「分かった」「できた」と感じられる振り返りを書くためには、どんな指導過程を踏む必要があるかを考えて、教材研究を行い、授業改善を行う。
- ・児童自身が自分の学びを自己評価し、これまでの経験、感じ方、学習を振り返り、さらに考えを深められる振り返りとなるよう指導する。
- ・なぜ、本単元や本時で「分かる」「できる」ようになったのかを自覚し考えられる振り返りとなるように指導する。

③児童が学びを生かすための指導

○習得した事柄を日常生活や他の場面で活用することができるかどうかを確かめる場を設定する。

- ・日々の授業で、既習事項を振り返り、自分の考えを持つための手立てとする。
- ・3～6年生は、主に算数科で単元末にSSN掲載の「思考力を確かめる問題」に取り組み、学習したことを生かし、粘り強く考えようとする児童を育成する。取り組んだ問題は、「思考力を確かめる問題」ファイルにまとめ、いつでも活用できるようにする。
- ・単元末や学期末に実施するテスト（業者版）を全校で共通して選定し（下記の表参照）、児童の学びを生かす力がどの程度だったのか教師が見取ったり、経年変化を比べたりできるようにする。（プレテスト等を注文するかどうかは、各学年の判断に任せる。）

国語	明治図書 A または AP（まとめあり）
算数	新学社 A・C（期末あり）
理科	新学社 A・C（期末あり）
社会	新学社 A・C（期末あり）

④児童が基礎的・基本的な学習を定着するための指導

- (1) 漢字小テストの再テスト実施（1年生は、2学期以降）
初回の漢字小テストで満点に到達しなかった児童は、最低でも1度は再テストを実施する。
- (2) テスト受験の方法
公的なテストの受験方法を身に付けたり、どの教員がどの学年で指導したりして、共通した受験方法となるよう、全校で受験方法を下記のようにそろえる。

～テストの おきて 5かじょう～

1. 机の上には **黒えんぴつ2本**と
けしゴム、じょうぎを用意するべし。
2. 美しい字で **丁寧**に書くべし。
3. **出来そう**な問題から やるべし。
4. **決められた時間まで 何度も見直す**べし。
(終わっても 読書や 他のはしないよ。)
5. **物を落としたら、先生に手を挙げて**
伝えるべし。

- (3) クロムブックの活用
クロムブックを1日に1回は活用する。月に1回（月初めの金曜日）、自宅に持ち帰る日とし、その日の家庭学習に、ドリルパークやタイピングに取り組ませることとする。
また、クロムブックは、毎日登校したら児童が
- ①充電保管庫から取り出す
 - ②タブレットケースに入れる
 - ③タブレットケースを机の右側にかける
 - ④掃除がある曜日は、そうじが始まるまでに廊下や教室内のフックにかけ、掃除後は机の右側にかける
 - ⑤終わり会の時に全員分が戻っているかを教師が確認し、鍵をかける
 - ⑥担任以外の授業の際には、使用の有無に関わらず、タブレットケースを持って行くこととする
- (4) ミライシードドリルパークの活用
過去の学習内容を想起させるために、継続して取り組む。
- (5) 自学ノート（主に3年生以上）
自学ノートに取り組ませる際には、計算ドリルや漢字ドリルで間違えたところに再度取り組ませたり、何度も繰り返して取り組んだりするように指導する。

(6) 朝学習

全校で共通して下記のように取り組む。

曜日	内容
月	読書、読み聞かせ
火	国語・漢字
水	タイピング練習 (1年生は、10月以降。それまでは国語プリント) ※タイピングで使用するソフトは、学校で決めた8つのみ
木	英語 ST
金	算数 (1～3年生は、マス計算に重点的に取り組む)

(7) 家庭学習

年度当初のスクールフォーラム、並びに授業参観時の懇談会で、家庭学習の充実に向けた話を行い、「学年×10分」以上学習する習慣を身に付けるように働きかける。学校だより、学年だより等で、定期的に家庭学習の内容や意義を伝え、家庭の協力を求める。